

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：えいむ	種別：生活介護	
代表者氏名：斗舛 もも子	定員（利用人数）： 40名	
所在地：〒249-0004 逗子市沼間5-4-5		
TEL：046-873-5141	ホームページ：http://www.shounannagi.or.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2006年7月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人湘南の凧		
職員数	常勤職員： 8名 非常勤職員 10名	
専門職員	サービス管理責任者 1名	
	看護師 1名	
	介護福祉士 1名	
施設・設備の概要	作業室8、休憩室3	相談室、医務室、更衣室、食堂
		シャワー室

③理念・基本方針

◇基本理念

1. 利用者が尊厳を持って、自立できる地域社会の実現を目指します。
2. 基本的人権を守り、個人の尊厳を重視した支援を行います。
3. 地域とともに歩み、地域から信頼される法人を目指します。
4. 常に法令を遵守し、良質な福祉サービスを提供します。
5. 法人の経営基盤を強化し、経営の透明性を確保します。

◇職員行動指針

1. 私たちは、社会福祉法人の職員であることを強く自覚し、高い職業倫理を身につけます。
2. 私たちは、常に法令・制度に対する自己研修に励み、これを遵守します。
3. 私たちは、利用者の基本的人権と個人の尊厳を守り、利用者本位の支援に努めます。
4. 私たちは、地域のセーフティネットの一翼を担うものとして、地域社会と連携し、様々な困難に立ち向かいます。
5. 私たちは、「障害者権利条約」推進のため、イエローリボン運動に賛同します。

④施設・事業所の特徴的な取組

- 自閉症の特性に配慮して、TEACCHプログラム（一人ひとりの優れた部分を発揮できるように支援していく包括的プログラム）を基にした構造化（生活場面において環境設定やスケジュールの提示などで何をすべきかをわかりやすく提示する方法）により、利用者が安心して作業や活動に参加できるよう取り組んでいる。利用者はパーティションで仕切られた作業スペースで、写真カードなどを確認しながら、一日のスケジュールに向かっている。
- 言葉でのコミュニケーションが苦手な利用者に対して、PECS（絵カードを使用したコミュニケーションの方法）を用いて、職員とのコミュニケーションを図るこ

とができるよう取り組んでいる。利用者一人ひとりの状況に合わせて学習のステップ（フェイズ1～6）を踏み、利用者は自主的に意思表示を行うことができるようになってきている。これまでは主に事業所の中だけで活用していたが、今後は外出先の買物などでもPECSを使用できるよう取り組んでいる。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年7月1日（契約日）～ 2023年2月8日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2018年度）

⑥総評

◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等

○生活介護事業所「えいむ」は、地域で生活を送る利用者を対象に、日中の活動を支援している。利用者の9割以上が自閉症の男性で、1階と3階の作業室にて構造化されたスケジュール表を「目」で確認しながら、作業や活動を行っている。

○銅線解体や人形の袋詰め、ボジョレーヌーボーの箱作り、封筒作り、苗木作り、空き缶や古紙の回収など、利用者それぞれに適した作業を用意している。利用者はその中から好きな作業を選んでいる。また、利用者の特性に配慮して、作業を細分化して提供している。

○年々、利用者の高齢化が進んでいることから、楽しみながら身体機能の維持、向上を図る活動を多く揃えている。サイクリングマシンや足踏みマシン、卓球、ロデオマシンなどの器具や、職員手作りのダーツ、球貼り、ボール入れなど、利用者が楽しみながら身体を動かすことができるよう工夫している。

○利用者の会「はれぞら会」があり、月ごとのお楽しみの企画をしたり、自分たちの行きたいところ、食べたいものなどの話し合いを行っている。「はれぞら会」で、月の飾りつけをどうするか、ウォーキングをしたいなどの意見を出し合い、具体化して楽しんでいる。

○湘南国際村の里山活動に参加し、苗木を育てている。苗木が大きくなると、利用者は植樹活動や草刈りに参加している。湘南国際村では、何年も前に植樹した木々が自分たちの背丈より大きく育っているのを確認して、利用者はとても喜んでいる。10月頃に実施している、駅前の赤い羽根共同募金活動には、「はれぞら会」の利用者が主に参加している。

○利用者のリクエストメニューを献立に取り入れている。リクエストメニューは、献立表に星印を入れ、利用者がとても楽しみにしている。給食は季節を感じる旬の食材を取り入れて提供している。

◇独自項目への取り組み

○事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムを確認する「発展的評価項目」に取り組んでいる。「給食時における利用者の動き、席配置、職員の動きを整理することにより、利用者に落ち着いた空間で、食事を楽しんでもらう環境を整備する」ことをテーマにして、取り組みの過程をPDCA（計画、実施、反省、課題の検証）に分け、実践を振り返っている。食堂内の構造化を目指した取り組みを進めている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

自己評価表にて点検を行うことで、当事業所の運営や支援方法等の強みや課題を改めて確認することが出来ました。また、訪問調査を受けることで、自分たちが日頃行っている事柄について説明が出来るように、との思いから自身の仕事を振り返る等、職員個々の学びを深める機会ともなりました。引き続き、提供するサービスの質を高めていけるよう、取り組んでまいります。

発展的評価項目では利用者の食事時間に焦点を当て、職員間で課題や原因、改善策

について話し合い、取り組みました。職員個々が感じていた利用者支援に関する課題を、職員間で話し合い、共通認識をもって計画的に取り組めたことは、今後事業を運営していく上でも、大変有意義な機会になったと考えております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり